



青葉の笛だより

第47号

令和6年7月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

平成十九年の大師堂改修落慶の日の午後、生後五十日で博多から新幹線の個室に乗って来神し、それ以降十六年を共に暮らした愛犬を、昨年七月二十日に亡くしました。私の誕生日より一週間遅い八月三十日生まれなので、あと四十一日で十六歳でした。

この犬は私たち夫婦にとって初めての飼い犬であり子供で、いつの間にか部屋飼いになり、寝るのも私の布団の上になっていました。潮見台から裏山に上がれば須磨浦山上遊園地やオラガ山、海に出れば須磨魚港から須磨水族園の東側までの海岸を歩き、更に鷹取まで歩くこともありました。

その子との別れを悲しむ私たちに、福岡の兄がお寺で出している新聞「ほとけの里通信」の令和二年の十二月号に載せたという、以下の一文を送ってくれました。

死ぬのが怖いから飼わないなんて言わないで欲しい。お家を汚すから飼わないというなら、犬はお行儀を身につけることができる。留守がちだから飼わないというなら、犬はけなげにも、孤独と向き合おうと努力するかもしれない。貧乏だから飼わないというなら、犬はきつと一緒に貧乏を楽しんでくれる。

だけど、死ぬのが怖いからと言われたら、犬はもうお手上げだ。全ての犬は永遠じゃない。いつ

かはいなくなる。でもそれまでは、すごく生きている。すごく生きているよ。たぶん今日も、日本中の犬たちはすごく生きていて、飼い主たちは、大変で暑苦しくって、幸せな時間を共有しているはず。飼いたいけど飼わない、という人がいたら伝えて欲しい。犬たちは、あなたを悲しませるためにやっては来ない。あなたを微笑ませるためだけにやってくるのだと。どこかの神様から、ムクムクしたあたたかい命を預かってみるのは、人に与えられた、素朴であって高尚な楽しみでありますよと。

兄は、自分の不注意で飼い犬を亡くした時に、この一文をもらい、悲しみと後悔の苦しみが癒されたと言っていました。あるペットフード会社の広告文だそうですが、愛犬愛猫を亡くされた方には心に響く言葉だと思えます。兄はまた、大切な家族を亡くされ、悲しみにくれておられる方々から見れば、たかがペットと思われるかもしれませんが、しかし人と犬、家族と共にある全ての動物たちとの出会いは、かけがえのないものなのです、と述べていました。

見聞きしてそれを蓄積し、それらを語り、文章にするなどして表現し、要求出来る私たちと違い、飼われている動物たちは、私たちの愛情をひたすら信じて共に暮らしています。ああしてあげば良かった、こんなにしていれば良かったという思いは、今でも浮かんできます。でも共に過ごしたこの十六年は、私たちにあって楽しく幸せな十六年だったことは間違いないと思います。いつかまた彼と逢える日を信じて。

大本山須磨寺 貫主

小池 弘三

合掌

令和六年度

櫻壽院 行事

檀信徒の皆様と櫻壽院で何か楽しい事が出来たらいいな。皆で笑顔になれる事があればと考えておりましたら、たくさんのご縁をいただいたので、ご報告させていただきます。

井上 真英

のんのんまつり

のんのんまつりで何をしようかと思案中に『グラフィックレコーディング』を推奨している団体「湊ペンペンズ」をご紹介頂きました。

初めはグラフィックレコーディングの言葉も知らなかったのですが「自分の伝えたいことなどに絵にし、理解を深める」ことと、お聞きしました。これは、お寺で何か出来るのではないかと思います、「湊ペンペンズ」の方と相談し、お参りの方々が笑顔になるよう「皆様の未来への想い」を描いて頂くことになりました。想いを話すことで自分の心と向き合い、絵にしてみらうことで理解を深め、想いが叶うように仏様に祈る。用紙は散華の形にし、仏様の御朱印を押すことにより「絵まもり」としてお持ち帰り頂く。多くの絵師、散華の準備など多方面の方々にご尽力頂き、



櫻壽院 井上真英



管長さんの想い

檀信徒の皆様と共に、笑顔と共有出来たことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

さくら大師

区役所の方とお話する機会があり「子供の居場所づくり」を推進していると聞き、数年前から近所の子供達のために何かできないかと思っておりましたので、小さな子ども食堂をすることを決め「さくら大師」と名付けました。第一回は六月九日、朝八時に集まり、本堂でお勤め焼香。裏の部屋でパンとバナナとジュースの朝



本堂 お勤め



お菓子配り

食。食べ終わりましたら本堂に戻って、お供えのおさがりを配りました（じゃんけん大会）。初めてで心配しましたが無事終わり、第一回目からジュースのご寄付を頂くなどご縁に感謝申し上げます。これから毎月第二日曜日の朝に子供達がお寺に集まり、手を合わせ、朝食を食べ、お菓子を持って帰る。小学生と学生ボランティア申込先着二十名の小規模で、朝食も簡単な軽食しか

出せませんが、子供達が少しでも笑顔で成長してくれればと願っています。物品の寄付も受付けております。ご寄付頂ける方は、櫻壽院にご連絡頂けると幸いです。よろしくお願いいたします。

高野山 団体参拝

六月五日高野山へ団体参拝いたしました。以前から高野山にバスでお参りに行きたい。出来れば私が学生時代を過ごした上池院で回向と昼食をしたいと申し出ておりましたら、多くの檀信徒さまから賛同のお声をいただき実現することができました。高野山では、上池院での回向のほか、伽藍、奥之院と参拝には高野山高校同級生に案内して頂き、皆様に喜んで頂きました。多くの方に参加して頂き、高野山の皆様にも良くして頂き楽しい団参でした。

次回、櫻壽院のバス旅行は九月に予定しております、また高野山団参は来年もお参りしようと思います。詳細は櫻壽院にお聞き下さい。



伽藍案内



高野山 伽藍

四萬六千日燈明会

ゝみあかり観音ゝ



四萬六千日とは、観音様のご縁日で、この日にお参りすると、四萬六千日参詣したのに相当する功德を生ずると言われています。

須磨寺では、本堂において初盆精霊供養の法要を執り行い、引き続き境内にろうそくで形づくられた巨大な観音様のお顔、みあかり観音の前で読経し、皆様方の所願成就・萬霊供養をご祈念申し上げます。その後、本堂前において和太鼓の奉納演奏などの催しもございます。ご知友お誘い合わせてご参拝下さい。

一、日 時 八月九日（金） 午後六時より
一、会 場 須磨寺本堂前
一、ご供養・ご祈禱料 ろうそく 一本 千円也
祈禱札 一本 三千円也
経木供養 一霊 三千円也

◎須磨寺本堂前寺務所にてお申し込み下さい。

夏・秋の行事案内

◆ 八月

- 九日（金） 四萬六千日燈明会 みあかり観音 〈午後六時〉 須磨寺 本堂
- 十一日（日） 十五（木） 孟蘭盆会
- 十五日（木） 盆大施餓鬼法要 〈午前十時〉 本坊客殿
- 十七日（土） 青葉殿孟蘭盆会法要 〈午前九時・正午・午後三時〉 青葉殿
- 十九日（月） 盆大施餓鬼法要 〈午後二時〉 櫻寿院本堂
- 二十日（火） 盆大施餓鬼法要 〈午後二時〉 蓮生院本堂
- 二十日（火） 二十一日（水） 盆大師（ご縁日）
- 二十三日（金） 地藏盆 〈午後三時〉

◆ 九月

- 十九日（木） 二十五（水） 彼岸会 特別護摩祈禱 〈午前十時・午後二時〉 護摩堂
- 二十日（金） 二十一日（土） 彼岸大師（ご縁日）

◆ 十月

- 十二日（土） 絵本テラピー 〈午後一時～午後四時〉 青葉殿
- 二十日（日） 二十一日（月） 大師縁日
- 二十六日（土） 須磨 夜音 音楽法要祭 〈午後六時〉 境内

◆ 十一月

- 二十日（水） 二十一日（木） 大師縁日
- 二十三日（土・祝） 秋の大祭 須磨の火祭り 柴燈大護摩供 〈午前十一時〉 須磨寺 境内

須磨寺 のんのんまつり 春季大祭

去る五月十二日（日曜日）に、須磨寺春季大祭、のんのんまつりを盛大に奉修いたしました。「のんのんまつり」は、仏尊・観音尊を示す幼児語「のんのんさま」に由来し、子どもからお年寄りまで仏教に親しみを感じる機会にしたいとの思いから名づけられました。

本堂での本尊慶讃法要をはじめ、法話、一絃須磨琴保存会による一絃須磨琴の奉納演奏、須磨寺御詠歌講による御詠歌の奉納が行われました。

境内では、念珠、塗香、ろうそくの製作体験、仏具販売、お寺巡り画家・尾中康宏氏による千手観音揮毫、災害救助犬紹介などの特別ブースが設けられ、塔頭正覚院においての阿字観瞑想体験、塔頭蓮生院においての写経写仏体験、塔頭櫻壽院においての「あなたの散華描きます」、キッチンカーの出店など多様なイベントが開催され、いずれも大勢の参拝者の方で賑わいました。

お参りくださいました皆様、お支えくださった皆様へ心より御礼申し上げます。



お寺で学ぶ 周活知恵袋

真言宗 須磨寺派 潮音寺 住職 中山 戒仁

「終の棲家」

選びと準備

◆ 将来の自分を見える化

「先が見えないこと」が一番大きな不安材料になります。が、先のことはその時にならないと分からないのも事実です。とは言って何もしないのではなく、自分なりの未来予想図という人生設計を広告の裏やノートに書き出してみて下さい。

不安に感じること、どのように暮らしたいか、介護や病気のことで、最期はどうありたいかなど、思いつくままに書き出してみて下さい。「見える化」すると自身で解決できることや、周囲の人にお手伝いを頂くこと、現状では難しいことなど整理ができ、少しは気持ちも楽になると思います。

◆ 準備は元気なときから

私は何をしても人との交流が最重要だと思っています。家族・お友達・近所さん・お仕事先・習い事やサークル・デイサービスなど、みなさん色々なコミュニティをお持ちかと思えます。最近では、お仕事等の都合で、ご子息等のご家族と距離の離れた環境におられる方が多いように思います。その反面、お友達や近所さん等との交流や助け合いの絆が深まり、安全・安心で楽しく暮らすことが出来るようになっていくように思います。入付き合いや人前に出ることが苦手な人、出不精な人も居られるかと思えます。先々ご自宅で過ごすにしても、居を移して施設への入所やご子息のおられる所に移されるにしても、他人の手を借りずに暮らすことは難しいかと思えます。少しずつでも自治会の会合やお手伝い、サークル等への参加や、お友達や近所さんとの交流を増やしてみませんか？みなさんが長年培ってきた経験や智恵を生

◆ 資料集めと施設体験

高齢化社会といわれて久しい今日、色々なサービスを提供する施設が出来ています。介護認定等の身体的な状況、経済的な状況、地理的な事情等の多くの複雑な要素や、ご自身の「想い」により近い施設を見つけなくてはなりません。ホームページ・CM・広告、知人友人の紹介等によって、大まかな施設の情報を入手することは簡単に出来ます。ここで気を付けなくてはならないのは、それらの情報のみで施設を選んだり、契約を進めてしまうのは避けた方がよいということです。住まいを移す先は言うまでもなく、生活の場になり最終まで過ごす場所になります。そして、多額の費用が生じることや、今までの住まいを処分するなど、一度移動してしまうと元の生活に戻すことは困難になります。気になる施設等へは、まずは体験入所や現地の見学等を通じて多角的な視点でご自身の体感や想い、過ごし易さを「ご自身の心身で確認することが肝要だと思えます。先述の通り、施設探しも元気なうちにしなければならぬと思います。

◆ 自宅で暮らすという選択

最近ではご子息等との同居や施設で暮らすのではなく、自宅で暮らしたいというお話やご相談もよくお聞きます。施設への入所に係る費用や住み慣れた環境や生活スタイル、地域とのつながり等を考えると介護保険の活用や、家事・介護サービスの利用、訪問医療や看護等を活用して自宅で余生を送るという選択を希望されている方もたくさんおられます。そこには、自宅で暮らすための制度や環境整備が充実してきていることも大きなきっかけになっていると思います。実際に、種々のサービスや友人・知人・近所さん等のお手伝いを頂き

◆ 想いをカタチにすること

将来のことについては、不確定な要素も多く、経済的な事情や住環境・家族関係等の複合的な事情から容易に決められることではないと思います。経済的なことなどの事情の調整や移転先での新しい環境に慣れること、人間関係の構築、自宅のバリアフリー化等のリフォーム、訪問医療・看護・介護等の受け入れ先の決定等、同居・施設・自宅のいずれを選択するにしても元気がうちからの準備が不可欠です。

今一度申し上げます。今までお話したことを基にご自身の未来予想図、気になること、不安なこと、やりたいことなどを書き出して、「見える化」して整理してみて下さい。

ご自身の未来予想図が確定出来るようになったら、パートナー・ご家族、信頼して先々のことをお願い出来る方に分かるように、書面にしてご自身の想いを伝えることと諸手続等がスムーズに出来るように、元気な今のうちに準備することを検討して頂ければと思います。

◆ おわりに

「周活」は旅立ち支度だけではありません。「安楽長」（安心で楽しく元気で長生きするため）の処方箋だと私は思っています。色々な専門家やお友達さんたちの智恵が集約されたものがこの「処方箋」です。ひとりご不安を抱えたり、思い悩まずにおてらの門戸を叩いてみて下さい。ご本尊様がお護り、お導き下さると思えますし、ご住職方もみなさんのお話を聞いてお智恵を絞って下さると思います。みなさんはおひとりではないですからね。

須磨寺の歴史〈三十三〉

― 明治期の須磨寺 ―

須磨寺は仁和二年（八八六）頃に会下山から須磨に移転して以来、須磨の地にありますが、その栄枯盛衰により寺域は変化してきました。今回は須磨寺派初代管長である小池真禪師が残した記録をもとに明治以前の須磨寺の寺域を見ていきたいと思います。

入り口は現在の仁王門より南に行き須磨寺駅の南、震災前まで西須磨公設市場があった所に閻魔堂があり、そこに「是より須磨寺参丁余」と書かれた標石と石灯籠（現在は蓮生院供養堂前にある）があり、そこからの参道には松並木が続いていたそうです。

参道の周辺には田畑が広がっていて人家は全く無く、さらに先に進むと今は暗渠になって分からなくなっていますが、千森川と交差し、川にかかった石橋を渡ったところに仁王門がありました。現在は龍華橋を渡ったところにあるもので、実現はしませんでした。須磨寺中興の長原師は元の仁王門跡に大門を建てる計画をしていたそうです。

そしてさらに進んで、今の交番の西側には二つのため池があり、綺麗な水が湧き出していました。後に土地の改修により今の須磨霊泉の場所に湧出場所が移されました。さらに進んで昨年に開園した島守の広場前には震災前まで中門が建っていました。

このように、時代を遡ると違う景色が見えてきます。次回は明治初期の須磨寺境内がどのような姿をしていたかを書きたいと思います。

蓮生院 七月から十二月までの行事予定

写経・瞑想体験会

お寺で写経と瞑想の体験会を致します。気軽にできますので、写経・瞑想を経験したことのない人でも是非ご参加いただき、疲れた心を癒しにお越しください。（写経のみ、瞑想のみの参加も可能です。足を組みやすい服装でお越しください）

日 時… 九月三日（日）・九日（土）

十月十二日（土）・二十七日（日）

十一月十日（土）・三十日（日）

十二月十四日（土）

写経会十四時～十五時半 瞑想会十六時～十七時半

（受付は三十分前から）

場 所… 蓮生院本堂
参加費… 写経五百円・瞑想千円

護摩行

毎月、二十一日十四時から厄除け大師堂で、二十八日十四時から蓮生院本堂で護摩を致します。お参りは自由なので、護摩行中はご自由にお入りください。

- 写経・瞑想体験会は事前申し込み制です。
- 数日前から発熱、咳、下痢、頭痛、息苦しさなどありましたら、参加はご遠慮下さい。
- 当日お昼までに蓮生院の寺務所にお申込みいただくかお電話でお申し込みください。
- 諸事情により取りやめになることがあります。

蓮生院電話番号 〇七八―七三一―二三一一

令和6年 年忌一覧

一周忌	令和五年亡	二十五回忌	平成十二年亡
三回忌	令和四年亡	二十七回忌	平成十年亡
七回忌	平成三十年亡	三十三回忌	平成四年亡
十三回忌	平成二十四年亡	三十七回忌	昭和六十三年亡
十七回忌	平成二十年亡	五十回忌	昭和五十年亡
二十三回忌	平成十四年亡	百回忌	大正十四年亡

仙師逍遙

過去という囲いの中

の、変えようのない時間
に挟まれて、いる葉を、
気まぐれにつまんでみ
たりすると、この世の
出会いにはどんな些細
なことも偶然ではな
かったとあらためて感じられます。



平成十五年（二〇〇四年）のある日。成田空港を飛び立つて十数時間。不眠がもたらす少しぼんやり頭には、降り立ったラスベガスの空がなんとも眩しくて、お出迎え戴いた金井勝海師をはじめ布教会の方々の熱い歓迎の言葉に、只々笑顔と感謝と恐縮の言葉を返していました。

当日のネバダ砂漠の気温は三十三度。でも低い湿度のせい、風は爽やかでまるで汗をかきません。ただ、貨物として四分割し厳重に荷造りされた、総屋久杉造りの十二面観音像を空港から搬出することに思いのほか時間を要し、ラスベガスの広い住居区画の中央にある、日蓮宗ラスベガス教会の祭壇に台座光背を組み立て、ご本体が納まったのは午後三時ごろでした。

当日ご一緒したのは高橋慈妙さんご息女の順子さん、材木店の田中さんと私と柴川翔鳳、そして東京教室の村上さんの六人。

林芙美子さんが放浪記の中で「ひと月に二十五日雨が降る」と記した屋久島から、ネバダ砂漠只中の街に鎮座された屋久杉の十二面観音様は、目の色も髪の色も肌の色も超えて、その場に参集された多勢の信者様の注視の中、厳かにまた肅々と流れる「開眼のとき」を持たれました。

法要の後はそのままくつろいだホームパーティーに移行して、本堂の大きな窓の向こうに広がるラスベガスの青空にゆったり流れる真っ白な綿雲が、長い長い一日の疲れをとっても優しく癒してくれました。

一日置いて翌々日のアメリカ滞在三日目。

ホテルでもらったメイドインUSAのチューイングガムの包み紙を、破れないよう丁寧に抜いて開いて、まず綺麗な正方形に切り取って、親指の爪で対角線に正確に折り目を入れて、小さな鶴を折っていたのはざわざわと騒がしい空港の待合室。

ラスベガスの仕事を無事終えて、グランドキャニオンへ向かう希望の休日の始まりは、観光地から観光地へのフライトで日曜日とあつて待合室は親子連れの旅行者であふれかえっていました。

スピーカーから盛んに流れる英語の案内に、「何ゆつとるかさばりわからん」と、どこにいても関西弁でしゃべる田中さんの声を聞こえないふりをして、鶴の羽を折っている私に、

「少し遅れそうです。でもほんの少しで行程にはまったく差し支え御座いません。」

と、ガイド役の順子さんが説明に来てくれました。十六歳から外国に暮らす方の英語の発音はとても見事で、そしてまた、私たちに語りかける日本語はとても綺麗で、耳慣れぬ異国の言葉の中に埋もれている私の耳には、揺れる青葉のようにこちよひびきをのこしてくれそうです。

「わかりました」

と、答えながら鶴の仕上げにかかる指先の動きは、子供の頃から折っているもので、もう目を閉じていても進めることができます。

くちばしも尾も細く鋭く、小さな鶴が

職人の大きな手の指の幅広の不恰好な爪の先で、羽を広げて飛び立とうとしています。

と、何気なく顔を上げれば金髪の小さな頭が二つ。ネバダ砂漠の空のように澄んだ青い瞳が四つ、私の手の中を見つめていました。

目と目が合って、思わず「はい」と日本語で言って、折りあがったばかりの鶴を差し出すと、こぼれるような笑顔を見せて、小さな手のひらに受けてくれました。

「もういち羽やるで」

と、肩越しに田中さん。

なるほどもう一人の子の目が待っています。私は新しいチューイングガムの封を抜いて、また鶴にとりかかります。人懐っこい二人の子はなんだか盛んに話しかけてくるけれど、順子さんがそばにいないからまるで意味がつかみません。

仕様がなから返事代わりの笑顔で相手しながら、せつせと作業を続ける私の指先に、まるで合わせるように青い目がきらきらと光っています。

この子達の記憶に残るのは、東洋のおじさんのマジックだろうか。それとも不恰好な太い指だろうか。

そんなことを考えながら、小さな鶴の小さな翼を折っていました。

その日ラスベガス空港はとても暑くて、飛行機は半時間遅れて離陸しました。私の折った二羽の小さな鶴は、その小さな翼をいっばいに広げて、アメリカの空と風の中を長い間元気に舞い続けていた。

と、
思っています。

後日、ラスベガス仏教会は名称をラスベガス観音寺と改称され、現在も沢山の方々の信仰を集めておられるとお便りをいただきました。

須磨寺大仏師

山高龍雲



須磨の火祭り

須磨の火祭りは屋外での柴燈大護摩供^{さいとうわくまぐ}で、この一年を無事に終えた事を仏様に感謝し、火渡りによって身を清め新しい年を迎えるために晩秋に行います。火渡り修行とは火生三昧^{かしやうさんまい}ともいわれ、柴燈護摩の終わりに火の上を渡る荒行です。浄火により災厄を祓い福を招くといわれております。特に来年厄年を迎える方は、厄難消除のために、火渡りをして身を清め、新年をお迎え下さい。

火渡りの方は当日お礼、行者手ぬぐいをお渡しします。

記

一、日時 十一月二十三日（土曜日）

午前十一時開白

一、会場 須磨寺境内 ※荒天時は、護摩堂にて

一、ご祈禱 特別祈禱礼

一万円・三万円・五万円

添護摩木 千円

一、火渡り 厄年特別火渡り 五千元

一般火渡り 二千元（先着百五十名）



※火渡り修行は荒行です。多少のやけどもごさいます。申込書の注意をよくお読みのうえお申し込み下さい。

一、お申し込み 須磨寺派各寺院にお申し込み下さい。

令和七年厄年表

平成十九年生（女性）	厄年	平成 十三年生（男性）	小厄
平成六 年生（女性）	前厄	昭和 六十年生（男性）	前厄
平成五 年生（女性）	本厄	昭和五十九年生（男性）	本厄
平成四 年生（女性）	後厄	昭和五十八年生（男性）	後厄
平成元 年生（女性）	厄年	昭和 四十年生（男性）	厄年
昭和四十年生（女性）	厄年		

地藏盆

今年も、須磨寺境内、4か所（親子地藏、櫻壽院、蓮生院、正覚院）にて、地藏盆を行います。地藏盆とは、子どもたちの無病息災を願う、子どもが主役のおまつりです。お地藏さまに、お菓子を供奉し、お参りに来られた子どもたちに、お菓子をお渡しします。いつも見守ってくださるお地藏さまに感謝をしに、お参りにお越しください。



記

一、日時

八月二十三日（金曜日）

午後三時より

一、会場

須磨寺境内 4か所

（親子地藏、櫻壽院、蓮生院、正覚院）

※お菓子は、先着順で、無くなり次第終了となります。

